事例報告会の実施

本事業の一環として、2024年3月4日（月）に「外国人高齢者の支援に関する事例報告会」を「いくのコーライブズパーク」（大阪市生野区）において開催しました。事例報告会では、外国人高齢者の支援経験等を有する有識者から支援事例についてご報告いただき、外国人高齢者の支援をテーマにパネルディスカッションを行いました。

事例報告会では、介護施設・事業所や国際交流・外国人支援に関わる方、自治体の方など多くの方にご参加いただき、盛況な会となりました。

事業報告書

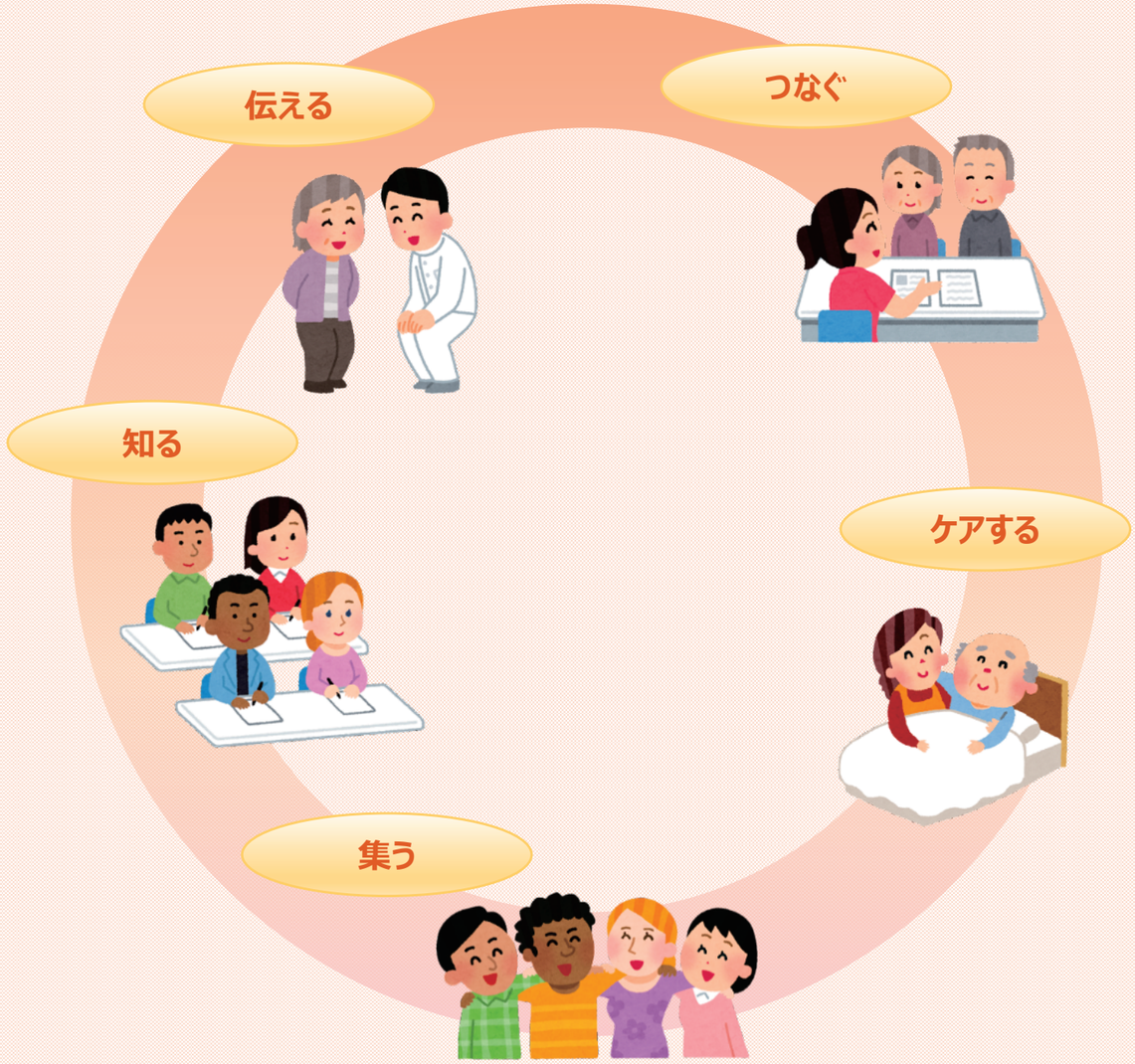
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所が実施した下記事業の報告書が公開されています。ぜひご覧ください。

- 厚生労働省 令和４年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」
- 厚生労働省 令和５年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割に関する調査研究事業」

URL：https://www.nttdata-strategy.com/roken/index.html

厚生労働省 令和５年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
「地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割に関する調査研究事業」

外国人高齢者の支援に関する事例集
～外国人介護人材の活躍に着目して～



令和６年（2024年）3月
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

事例集について

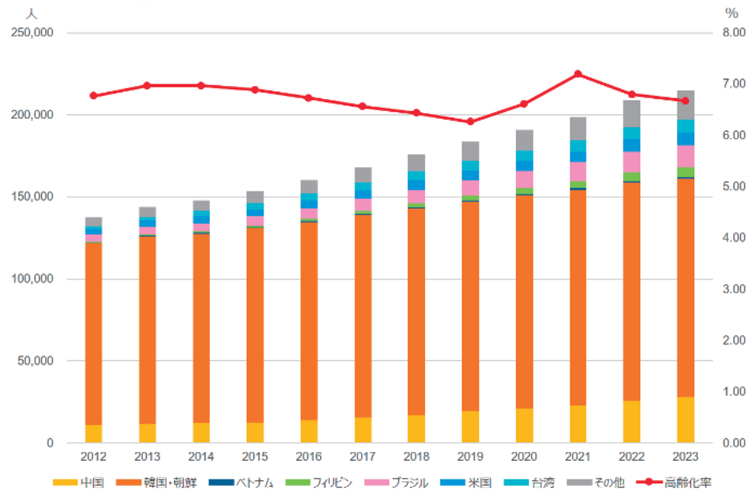
はじめに

本事例集は、「外国人高齢者の存在や、必要な支援についてもっと多くの人に知ってもらいたい」「日本で多様な活躍をする外国人介護人材を知ってもらいたい」という思いのもと、厚生労働省 令和４年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」（以下、令和4年度事業）、および、令和５年度「地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割に関する調査研究事業」（以下、本事業）において実施した調査結果を元に作成しました。

どうして、外国人高齢者の支援を考えることが必要なの？

2023年6月末時点で、在留外国人の高齢化率は約6.7%となっています。日本の人口が減少する中、在留外国人数は増加傾向にあり、今後、外国人高齢者数も継続的に増えることが想定されます。

図表1　在留外国人の国籍別高齢者数・高齢化率の推移



出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計」
（各年12月末時点、2023年のみ6月末）より作成

一方で、外国人高齢者本人や外国人高齢者を受け入れている施設・事業所、外国人高齢者の支援者についての実態把握・支援の実施は十分でありません。

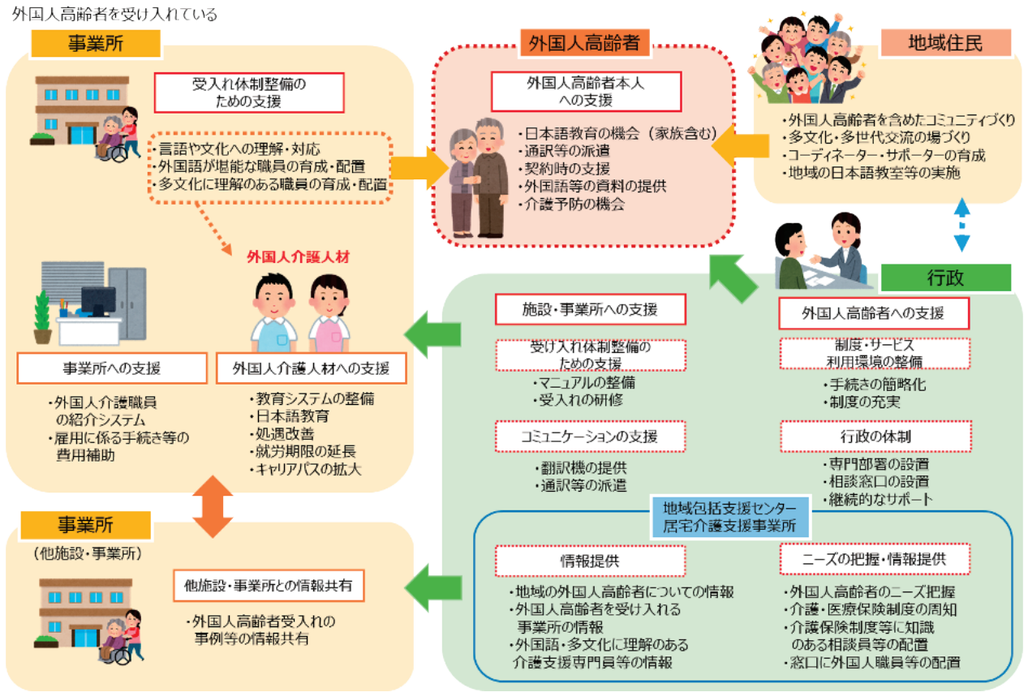
令和４年度事業で実施したヒアリング調査やアンケート調査からは、外国人高齢者は言語や文化の違いから、日本の介護施設に馴染まないケースがあることや、介護保険制度について正しい情報を得にくいこと、また、以前日本語ができていても、加齢により母国語しかできなくなってしまうケースがあるなど、**外国人高齢者に特別なニーズがある**ことが分かりました。

そして、外国人高齢者の支援においては、外国人高齢者の話す言葉や置かれた状況について理解をしやすい**外国人介護人材の果たす役割が大きい**ことも、明らかとなりました。

本事例集では、以上の点から、外国人高齢者の支援について、具体的な事例を中心に支援方法や必要な工夫等を掲載し、いくつかの事例では外国人高齢者の支援に関わる外国人介護人材の活躍をクローズアップしています。

下記の図に表されるように、外国人高齢者の支援は、外国人高齢者を受け入れる施設・事業所、直接支援に関わる介護職員だけでなく、地域住民や行政等、多くの関係者がともに考え、取り組むべき問題です。

図表2　外国人高齢者への支援



出典：令和4年度事業報告書より

外国人高齢者も安心して日本で過ごせる社会の実現に向け、本事例集をもとに、多くの方が外国人高齢者や外国人介護人材の状況に関心を持ち、それぞれにできることは何か考えるきっかけとしていただければ幸いです。

＊＊＊本事例集は、以下の調査研究事業の調査結果を元に作成しています＊＊＊

- 厚生労働省 令和４年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 「外国人高齢者に対する効果的なケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」
- 厚生労働省 令和５年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 「地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割に関する調査研究事業」

本事例集の構成

- 本事例集では、外国人高齢者の支援をする際の流れに沿って、外国人高齢者を＜知る＞、外国人高齢者やその支援者に＜伝える＞、外国人高齢者と支援を＜つなぐ＞、外国人高齢者を＜ケアする＞、外国人高齢者と＜集う＞の５つの観点から、外国人高齢者の支援に関する事例をまとめました。

- また、外国人高齢者の支援には、外国人介護人材が重要な役割を果たしていることから、支援に関わる外国人介護人材の活躍にも着目し、これまでのキャリアや支援者の立場として感じること、今後目指すキャリア等について、まとめています。

＜取り上げている主なトピック＞

知る	•外国人高齢者を知る（外国人高齢者の状況、在留資格等） •地域資源を知る	p5～
伝える	•外国人高齢者に向けた介護予防の取組 •介護保険等の周知	p9～
つなぐ	•外国人高齢者を適切な支援、サービスにつなげる	p13～
ケアする	•外国人高齢者をケアする際の方法、工夫・配慮	p17～
集う	•外国人高齢者に限らず、外国籍の方が地域と繋がるための場づくり	p23～

本事例集の対象者

- 外国人高齢者を受け入れている、または今後受け入れる予定のある高齢者向けの施設・事業所
- 外国人が住む自治体の職員
- 外国人高齢者の受入れに関わる可能性のある団体や個人
- 地域にお住まいの方　等

活用場面

- 下記のような場面で、本事例集をご活用ください！

外国人介護人材

外国人介護人材の先輩方の多様な活躍を知りたい！

介護職員

ケアマネジャーから外国人高齢者の利用について相談があったけれど、受入れに際してどんな配慮が必要かわからない…

介護職員

事業所で、多くの外国人介護人材が活躍している。彼らの能力・魅力を引き出す事例を知りたい

地域住民

地域で、外国人高齢者が増えている。外国人高齢者のためにどんな取組ができるのか、先進事例を知りたい

自治体・地域包括支援センター

自治体内で外国人住民が増えている。外国人住民が多い他地域での地域包括の取組や課題を知りたい

用語の定義

- 本事例集では、外国人高齢者、外国人介護人材を以下の定義として用います。

＜外国人高齢者＞
外国籍の高齢者のほか、帰化して日本国籍を取得した者等、日本国籍を有していながら外国につながる背景をもつ人を含めます。
- 外国籍の者　－　帰化して現在は日本国籍の者　－　中国残留邦人（1世、2世）
- 国際結婚によって生まれた日本国籍を有する者（国外、外国語での生活経験がある者に限る）

＜外国人介護人材＞
介護職として就労できる4制度に加え、すでに「永住権」を取得している者や「日本人の配偶者等」として在留している外国籍の介護職を指します。
- EPA介護福祉士候補者・介護福祉士：「特定活動」　－　在留資格「介護」
- 介護の「技能実習」　－　介護の「特定技能」
- 介護職として就労する「永住」「定住」「日本人の配偶者等」等
- 介護施設・事業所でアルバイトしている「留学」

知る

外国人高齢者を適切な支援につなげるためには、
支援者が外国人高齢者の状況を知ることに加え、
支援者自身の相談先を知ることも重要です。
外国人高齢者の支援のために、支援者が活用できる媒体を紹介します。

外国人高齢者を知る

多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）

- ボランティアグループ「ユッカの会」と神奈川県社会福祉協議会の協働事業として、 言葉や文化、宗教の違いを超えて、神奈川に暮らす多文化の背景を持つ方たちと共に、暮らしやすい地域をつくるための活動をしています。

外国人高齢者等に関する先行研究等データベース

- 外国人高齢者に関して多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）が調べた先行研究などがデータベース化されています。外国人高齢者に対する調査研究事業の報告書に加え、介護分野の多言語情報や、外国人高齢者を神奈川県で積極的に受け入れる施設・事業所の情報も掲載されています。ぜひご覧ください！
- https://padlet.com/tknkyukka2021/tknk-vpuyq744koe942cd

ユッカの会（事務局）について

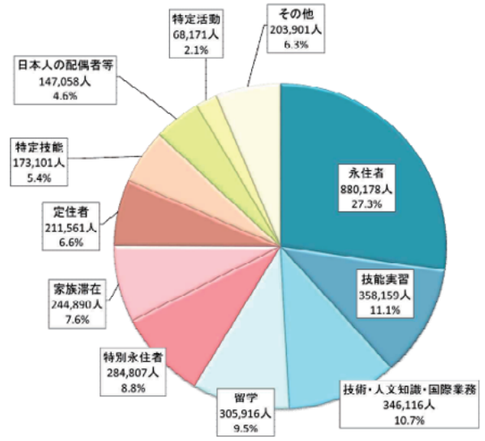
中国残留邦人帰国者家族および外国につながる人々とボランティアが”ともに学び、ともに楽しむ”姿勢で心豊かに充実した生活を送ることを目的として設立されたボランティアの会です。
補習教室、日本語教室の実施の他、高齢者問題に関しては、ユッカの会が病院同行、地域包括支援センターやケアマネジャーにつなぐ役割も担っています。

多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）
HP:　https://padlet.com/tknkyukka2021
ユッカの会（事務局）
HP:　http://yukkanokai2014.web.fc2.com/index.html

在留資格を知る

- 外国人が日本に在留し、一定の活動を行うためには、原則として入管法に定める「在留資格」を取得する必要があります。在留資格は、日本で行う活動に着目した分類と身分や地位に着目した分類があり、全部で29種類存在します（令和６年２月現在）。
- 在留資格は複雑で、在留資格によって受けられるサービスが異なることがあるため、在留資格について知り、確認することは大切です。ここでは、代表的な在留資格について紹介します。

在留資格別　在留外国人の構成比（令和５年６月末）



出典：在留外国人統計
https://www.moj.go.jp/isa/content/001403955.pdf

- 年齢別のデータが公開されていないため、全年齢を対象にした統計となりますが、在留資格別では、「永住者」が最も多く、次いで、「技能実習」、「技術・人文知識・国際業務」、「留学」、「特別永住者」の地位をもって在留する者となっています。
- 「永住者」や「定住者」等の身分や地位に基づく在留資格や「特別永住者」は、基本的に日本人と同様の社会制度・サービスを受けることが可能です。しかし、日本に長く住んでいても、就労場所の問題や年金制度を正しく伝えきれていないために、保険料の払込期間が足りず、受給資格を満たさない方も多いようです。

現在、外国人高齢者に多い在留資格について

永住者
法務大臣が永住を認める者
- 在留期限や活動に制限はありません。申請には、素行が善良であることや、10年以上継続して在留していること等の要件を満たす必要があります。
- 永住者の要件については、法務省HPに掲載の「永住許可に関するガイドライン」を確認ください。

定住者
法務大臣が特別な理由を考慮し一定の在留期間を指定して居住を認める者
- 例）第三国定住難民、日系３世、中国残留邦人等

特別永住者
昭和20年の敗戦以前から日本に住み、昭和27年サンフランシスコ講和条約により日本国籍を離脱した後も日本に在留している台湾、朝鮮半島出身者とその子孫
（出典：松戸市HP　https://www.city.matsudo.chiba.jp/shisei/jumin_touhyou/kaigi.files/3shiryou1.pdf）

支援者の相談先を知る

外国人に関する支援団体マップ

- 外国人高齢者に特化した支援団体は一部の地域に限られますが、外国人住民に対する支援団体は多数存在します。

※①主な取組　②本部所在地、国内拠点数

CINGA

- 外国人相談、地域日本語教育、行政施策の仕組みづくり等について高い知見を有する各分野のプロフェッショナルが参加し、自立した市民団体としてさまざまなプロジェクトを行っています。
- 医師、弁護士、行政書士等の専門家が所属しており、多言語の相談員は専門性に合わせて下記①～⑤の相談窓口に配置されています。
- 各相談窓口で相談方法（電話、対面等）が異なりますので、詳細はCINGA HPをご確認ください。

	外国人相談事業	対象者
①	東京出入国在留管理局主管　外国人のためのワンストップ型相談センター「外国人総合相談支援センター」 ※委託	在留外国人
②	外国人技能実習機構「母国語相談」 ※委託	技能実習生
③	外国人のための無料専門家相談会	国際交流協会や自治体の窓口、公的機関等
④	外国人対応者のための相談室	国際交流協会や自治体の窓口等
⑤	JP-MIRAI「外国人相談窓口」	外国人労働者及びJP-MIRAIポータルに登録した外国人

特定非営利活動法人　国際活動市民中心
CINGA（シンガ）：Citizen's Network for Global Activities
HP: https://www.cinga.or.jp/

多言語での情報サイトを知る

出入国在留管理庁 外国人生活支援ポータルサイト

- 出入国在留管理庁が監修する「生活・就労ガイドブック」では、日本の生活に必要なことが分かりやすく説明されています。第７章では、年金、介護保険等について多言語でまとめられ、公開されています。
- https://www.moj.go.jp/isa/support/portal/pension_and_social_insurance.html

出典：出入国在留管理庁　HP
https://www.moj.go.jp/isa/support/portal/pension_and_social_insurance.html

生活・就労ガイドブック

共生社会を築くために進める取組の一部が分かりやすく紹介されています！

HarmoniUP!

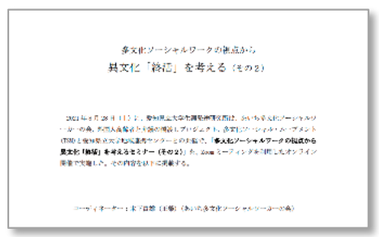
出典：
https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/04_00070.html

やさしい日本語を知る

- やさしい日本語を使うことで、日本語を母語としない介護職員・利用者、利用者家族と円滑なコミュニケーションをとれることが期待できます。
以下のサイトでは、ワークブックやYoutubeを活用し、介護現場でのやさしい日本語について学習できます。
https://wakuwakumanabudiversity01ibunka.qloba.com/
- **はさみの法則**　で話しましょう！
  - は：はっきり　あいまいな言い方はせず、わかりやすく。
  - さ：さいごまで　文末をぼかさず、さいごまで話す。
  - み：みじかく　だらだらと話さずに、1文を短く切って話す。

宗教への配慮を知る

- 外国人の場合、宗教によっては、死生観や埋葬の希望などが日本と異なる場合があります。
- 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト（本事例集p11でも紹介）代表の木下氏は、異文化「終活」をテーマとしたセミナーや論文を執筆しています。セミナーの一部の議事録や、論文が公開されていますので、是非ご覧ください。
- https://www.aichi-pu.ac.jp/gakujyo/rpb/institute/item/4109f63cbd61a9b66680e4b879636813b7c3b03f.pdf



伝える

外国人高齢者自身も高齢期に備えることが重要です。
外国人高齢者を対象に、介護予防教室や介護保険制度の周知などを通じて、
日本で高齢期を迎えるにあたり必要な支援を行っている団体を紹介します。

体操をしてから、アイシングクッキーを作りました♪

株式会社　Seina Corporation

- 中南米のスペイン語圏出身の外国人を対象に、介護予防教室「SIEMPRE　GENKI」を開催しています。
- 2023年には、これまで拠点としていた神奈川県を離れ、群馬県伊勢崎市で、外国人高齢者を対象とした訪問介護サービス事業所「いつも元気サポート」を立ち上げました。

介護予防教室

SIEMPRE　GENKI（シェンプレゲンキ／いつも元気）　SIEMPRE＝スペイン語で「いつも」

- 「参加者が元気でいること」「家から出て孤独を防ぐこと」を目的に、群馬県伊勢崎市、神奈川県藤沢市などで1回に3時間介護予防教室を開催しています。
- プログラムは、脳トレ、介護予防体操、口腔体操などと、認知症、介護保険制度などの説明、相談を組み合わせて行っています。
- 参加者は、回によって10～15人、9割がペルー人、ほかアルゼンチン、日本、パラグアイなど。40代～80代が参加しており、平均は60代です。

実施の際の工夫

- **一般の介護予防教室と同じプログラム**
  - 日本語の介護予防教室に行ったときに、言語が違うだけで迷うことなく参加できるようにしています。他の介護予防教室にも行ってほしいという思いがあります。
- **ひらがな・カタカナの脳トレで楽しく日本語に触れる**
  - ひらがなやカタカナの脳トレを作って使用しています。30年日本にいてもひらがなを書けない人もいるため、日本語で介護サービスを受けることになったときに馴染めるように工夫しています。

利用者の声

ペルー出身・60代

スペイン語での介護保険の説明会に参加して、初めて理解することができ、意識も変わりました。

アルゼンチン出身・80代

Seina　Corporationの集まりに来ると明るい雰囲気でおしゃべりができるのでいつも楽しいです。

代表 エリサさんの活躍

エリサさんのこれまで

1989年 来日

語学力を活かして就職

市役所や国際交流協会などの外国人相談窓口で、外国人対応の仕事をしました。

2015年　介護の仕事に従事

介護事業を立ち上げる夢を叶えたく、まずは介護の現場を知るために介護の仕事に就きました。

介護予防教室スタート

2016年に神奈川県厚木市でSIEMPRE　GENKIを始めました。その後、神奈川県藤沢市、相模原市などに展開

2023年
株式会社 Seina Corporation
設立

小澤（ヒライ）　エリサさんの紹介

- アルゼンチン出身の日系２世
- 株式会社Seina Corporation　代表取締役
- 介護福祉士

支援者の立場として感じること

～外国人も、若いうちから高齢期に備えよう～

- 1990年代に出稼ぎで日本に来た南米系外国人は、いつかは帰国するつもりで貯金をほとんどしておらず、高齢になったときの準備が不足している方が多いです。若い時に、日本の制度について情報が提供されていれば状況は変わったかもしれないと思います。
- ある市で講演をしたときに、多言語の介護予防教室を開かないかと提案したところ「まだ必要性がない」と断られてしまいました。
- 制度の周知や介護予防、将来の備えなど何でも必要になったらやるのではなく、必要性に直面する前から取り組み始めましょう、と呼び掛けています。

今後の展開について

- SIEMPRE　GENKIの介護予防教室の取組を全国に増やしていきたいです。各地で、母語で介護予防を行える人を育てていきたいです。
- 株式会社Seina　Corporationは、訪問介護事業所「いつも元気サポート」を立ち上げました。国籍に関わらず誰でも安心してサービスを受けられるようにしていきたいです。

株式会社　Seina Corporation
住所：〒372-0844　群馬県伊勢崎市羽黒町6番地19
＜SIEMPRE　GENKI＞
Facebook：https://www.facebook.com/siempre.genki/

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト

- 外国人支援に関わる3つのNPO法人が「外国人と介護保険制度をつなぐ」ことを目標に、プロジェクトチームを発足。
- トヨタ財団の助成を受けたことをきっかけに、介護通訳者の養成、ボランティアの派遣、外国人への介護保険制度の周知、外国人の高齢化に関連する啓発などを行っています。

介護通訳養成

- トヨタ財団の助成を受け、2015年～2017年に2期27人の介護通訳を養成しました。選考基準は、国籍は問わず中国語・日本語ともにネイティブレベル。さらに通訳としての素質、人となりを複数の面接者で採点し、総合的に判断して受講者を決定しました。

＜通訳派遣＞
- 1年目は中国帰国者を対象に、延べ43回通訳派遣をしました。
- 依頼が一番多いのはケアマネジャーです。毎回同じ通訳が行くとは限らないため、引継ぎをしっかり行っています。
- 訪問リハビリテーションの事業者から「通訳を依頼するまで利用者と会話がなかった。通訳が入るようになってからは世間話をするようになり、会話から状態状況を正確に把握でき、効果的なリハビリにつながっている」という嬉しい話がありました。

介護保険制度周知

- 2015年～2017年の活動当初は、中国語に特化した介護保険制度の周知を行っていました。
- 2019年度のトヨタ財団の2回目助成では、介護保険制度の周知を日系ブラジル人、フィリピン人まで拡大。大型のシンポジウムを開催し、全国に向けて発信しました。外国人高齢者が安心して老後を過ごせるよう、国への政策提言と行政への提案も行いました。
- 2020年に愛知県の「外国人高齢者に関する実態調査」を行い、外国人と外国人支援者向けに、介護保険制度の多言語説明リーフレットを作成しました。
- 母国に介護保険制度がないと制度の理解が難しく、利用するメリットを感じないという問題があり、周知とともに啓発活動もしています。

介護通訳研修

日系南米人向け介護保険説明会

フィリピン人向け介護保険説明会

代表 木下さんの活躍

＼木下さんが作成に携わりました／

介護支援者向けの
多文化共生理解促進
リーフレット
出典：愛知県HP

王榮（木下貴雄）さんの紹介
- 中国残留邦人2世
- 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト 代表
- あいち多文化ソーシャルワーカーの会 代表

木下さんのこれまで

1982年 来日

NPO法人で支援活動

中国残留邦人帰国者の支援に従事。介護保険手続きの煩雑さに問題意識を持つようになりました。

介護通訳養成活動に注力

2014年トヨタ財団助成国内助成に採択され、介護通訳養成・派遣を中心に活動しました。

国行政への提言提案に注力

トヨタ財団助成2回目に採択され、外国人高齢者に配慮した法改正への提言と支援制度の構築の提案を中心に活動しました。

異文化「終活」等について発信！

外国人介護人材が果たす役割

- 外国人介護人材は、母語によるコミュニケーションにより、利用者に安心感を与えることができるだけでなく、現場で、母国文化、生活習慣に配慮できる介護サービスを提供することができます。
- 外国人高齢者の場合、日本人以上に背景理解が必要となります。中国残留邦人の支援に当たり、「なぜ日本人なのに日本語を話せないの？」と聞く職員がまだいると聞いたことがあります。
- 外国人介護人材は、異（多）文化間介護ケア理解への促進の中心的人材になることも期待されます。

今後の展開について

- 今後は、介護や終活に留まらず、異国の地で大切な人を失うことに対する異文化「グリーフ・ケア」について考え、発信していきたいと考えています。
- 異国での喪失の経験は、文化・習慣・価値観などの違いがあり、母語によるケアが必要だと考えています。

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト
Facebook： https://www.facebook.com/kaigotuyaku/

つなぐ

外国人高齢者が適切な支援を受けるためには、本人の意図やニーズを汲み取り、関係団体等につなげる人・機関の存在が重要です。
外国人高齢者を支援に繋げた事例のある居宅介護支援事業所等の事例を紹介します。

横浜市霧が丘地域ケアプラザ　居宅介護支援事業所

- 神奈川県横浜市にある居宅介護支援事業所。
- 中国語を話すことができる介護支援専門員（中国籍）がいることで、中国残留邦人への支援が可能となりました。中国語でのコミュニケーションを通して、利用者の想いを受け止め、信頼関係を築いたことで、適切なサービスにつなげることができた事例があります。

支援事例

Aさん（女性・70代）
- 中国人（夫が中国残留邦人）
- 9年前に来日。
- 日本語は全く話せない。
- 子どもは遠方に住む。

Aさんの事例	支援前	支援	結果
	• 膝の手術後、デイサービスを提案したが、日本語がわからないので受け入れられなかった。訪問介護と訪問リハビリサービスを提案したが、「中国語の対応が可能な介護事業所一覧」で探しても訪問リハビリは見つからなかった。 • 「病気があれば、要介護度が上がる」と本人の強い希望で、介護認定の区分変更申請をしたが、認定結果は、『却下』となり本人は怒っていた。	• 通訳アプリを使い、積極的で前向きに対応してくれる事業所を見つけ、サービスにつなげた。 • お互い不安がないように、同行訪問や連絡調整など、Aさんの想いの発信役となった。 • Aさんの手術後の辛さを受け止め、改めて介護保険を理解できるように、区の担当者と連携しながら、丁寧に説明し、自立支援という考え方を理解して頂いた。	• リハビリサービスを利用、通訳アプリで会話をするようになって2，3ヶ月経つと、アプリがなくても簡単な言葉でリハビリ動作ができるようになった。 • 半年後には、外出もできるようになり、日本語教室に通って、日本語を学びたいと新たな目標ができた。

支援の方法・工夫

- **「中国語の対応が可能な介護事業所一覧」（厚生労働省）の活用**
  - 厚生労働省が作成・公開している上記リストを活用しています。
  - https://www.mhlw.go.jp/content/12100000/001154065.pdf
- **支援者を増やすための働きかけとサポート**
  - **「言葉が通じなくても、気持ちが大事！」**通訳アプリを使って積極的にコミュニケーションをとる新たな支援の仲間を増やすことができました。
- **介護保険を正しく理解してもらうこと**
  - 介護サービスのことを人によってはお手伝いさんと同じだと思ってしまう場合もあります。日本の介護は、自立支援であるということを理解してもらうことが大切です。

ケアマネジャー李さんの活躍

李 牧遥さんの紹介
- 中国東北地方 遼寧省出身
- 横浜市霧が丘地域ケアプラザ　居宅介護支援事業所　介護支援専門員
- 介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士 精神保健福祉士

李さんのこれまで

2009年 来日

大学で社会福祉を学ぶ
日本語学校で学んだあと、日本の大学に進学しました。在学中、特別養護老人ホームでアルバイトをしました。

大学院進学
高齢者の介護の学びを深めるために大学院に進学しました。

就職・念願の相談業務へ
長年の夢であった相談業務を行うため、現法人に入職しました。

中国語を理解する ケアマネジャーとして活躍！

支援者の立場として感じること

～ケアマネジャーは想いの代弁者～

- ケアマネジャーとして、支援ネットワークの仕組みや制度を分かりやすく説明し、理解してもらうことに気を付けています。また、相談者の歴史を理解し、要望を聞き出し、代弁者として繋ぐ先の職員に伝えることを意識しています。
- ケアマネジャーは常に利用者の側にいるわけではないため、利用者を近くで支える支援者とのコミュニケーションも大切です。言語だけでなく、性格、文化、背景などを理解し、相手を尊重する姿勢が重要です。
- 母語で対話ができなかった利用者には、伝えきれなかった隠された気持ちがあります。その気持ちをきちんと受け止めて、事業所の関係者に説明をして伝えています。

今後目指すキャリアについて

- 今後は、主任ケアマネジャーになって、ご利用者様が地域とつながるような支援ができるようになりたいです。後輩の外国人介護職員にも、日本でどのような人生を歩めるのか、どのようなキャリアを積むことができるのかなどを伝えたいと考えています。

横浜市霧が丘地域ケアプラザ　居宅介護支援事業所
住所：〒226-0016　神奈川県横浜市緑区霧が丘3-23
HP：https://www.foryou.or.jp/corp4/kirigaokahoukatu/

大泉町地域包括支援センター

- ブラジル国籍を中心とした外国人住民が多い地域にある地域包括支援センターです。大泉町からの委託を受け、社会福祉法人 大泉町社会福祉協議会が運営をしています。
- 外国籍の方の相談件数は、およそ全体の1割未満であり、日本人の職員が対応しています。
- 大泉町役場に外国人高齢者やその家族が相談に行き、町役場から地域包括につながるケースがほとんどですが、病院や、警察、生活保護からつながるケースもあります。

支援の方法・工夫

- **通訳・外国語の介護保険パンフレットの活用**
  - 通訳が必要な場合は、町役場の通訳者や社会福祉協議会の多言語ができる職員が対応をしています。通訳はポルトガル語、スペイン語、英語の3言語に対応しています。
  - 契約などの難しい話を母語で説明すると、トラブルを減らせる効果があるため、日本語が不自由な方が介護サービスの利用を開始する際は、契約、導入時にほとんどの場合、通訳を付けています。また、介護保険のパンフレットをポルトガル語に翻訳し、活用しています。
- **困窮者の発見**
  - 介護予防把握事業にて高齢者宅を訪問しており、困っている外国人高齢者は、日本人と同様に支援につなげています。
  - 経済的に困窮している方には、必要に応じて大泉町社会福祉協議会が実施している支援や制度を紹介しています。
- **外国語ができる職員が働く事業所への連携**
  - 外国人介護人材がいる施設や事業所を把握しています。外国人高齢者が外国語ができるスタッフのいる施設の介護サービスの利用を希望する場合、つないでいます。

視点

～ 小さな町の地域包括支援センター ～

大泉町は町のHPで「群馬県で一番小さな町」と紹介されており、総人口に占める外国人の割合は20%、内訳はブラジルが一番多く（55％）、次いでペルー（13.3%）、ベトナム、ネパール、フィリピンと続きます（大泉町HP 2023年12月時点）。

町にはブラジル、フィリピン等のコミュニティがあり、その中でなんとか介護をしている人が多いといいます。背景には、経済的理由がある一方で、家族のつながりが強く、家族で介護をする文化が根付いているためでもあり、相互理解の上で支援をする必要性を感じているそうです。

地域包括支援センターでは、介護ベットの寄付や福祉用具のリユース等、福祉のインフォーマルなサービスも含め、情報提供を行っています。

大泉町マスコットキャラクター
イズミオ～

大泉町地域包括支援センター
よぼう仙人

大泉町地域包括支援センター
住所：〒370-0523　群馬県邑楽郡大泉町大字吉田2465番地
HP：https://www.oizumishakyo.or.jp/entrance3.html

京都市東九条地域包括支援センター

- 在日韓国人集住地である東九条にある地域包括支援センターです。同地区には京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク・モア（p19）や特定非営利活動法人京都コリアン生活センター エルファ、多文化交流ネットワークサロンなど外国人支援のネットワークがあります。
- 外国にルーツのある方からの相談は、言語の壁を感じられている場合、本人よりも家族や支援者からの相談が多い傾向にあります。

支援の方法・工夫

- センターへの新規相談は、月に20件程度です。その内、外国に繋がる方からの相談は１割程度です。
- 介護保険制度では当事者の意思決定や自己選択が重視されます。制度が複雑で仕組みを理解することが難しく、日本語の習熟度によって支援や相談が滞ることがあり、信頼関係を築けている日本人の配偶者などがいると話が進みやすいです。
- **どのような生活を送りたいか、利用者の意向をきちんと確認すること**
  - 例えば、在日韓国人から相談があった場合、在日韓国人の同胞のネットワークは複数あるため、どこにつなげばよいのかを確認しながら行います。
  - 一方で外国にルーツを持つ方が、必ずしも外国にルーツを持つ方が集まる場所に行きたいわけではありません。先入観でつなげず、利用者の意向を尊重しています。ルーツが同じでも、相性や雰囲気が合わないということもあります。
- **支援者同士での情報交換**
  - 介護保険事業所、NPO、医療、行政の連絡会である東九条ネットワークがあり、勉強会や懇親会を開いて情報交換をしています。

京都市東九条地域包括支援センター

視点

～ 移りゆく町で寄り添う ～

京都市東九条地域は、京都駅の東南部に位置し、長年にわたり、在日韓国人の方が多く住むという特徴のある地域です。近年は、元々の在日韓国人１世世代の減少や２世、３世の転出、一方でニューカマーの転入などがあり、ルーツとなる国籍構成が変化しつつあります。

そのような特殊性や変化のある地域の中で、当センターは地域のネットワークを大切にして支援をしています。

京都市東九条地域包括支援センター
住所：〒601-8005　京都市南区東九条西岩本町1-1
HP：https://www.nozominosono.net/

ケアする

外国人高齢者の受入れや支援を積極的に行う施設・団体では、
外国人高齢者と同じルーツの職員が活躍しているケースも多くあります。
外国人高齢者の受入れ・支援における工夫や必要な配慮、
外国人介護人材の活躍の事例を紹介します。

愛知県高齢者生活協同組合 高齢者生協 ケアセンターほみ

- 訪問介護の対象エリアの豊田市保見団地は、日系人を中心とした外国人世帯の割合が高い地域です。
- サービス開始当初は外国人の利用者だけでしたが、多様な文化やバックグラウンドを持つスタッフが働く施設として認知度が高まるにつれて、日本人の利用者も増えていきました。
- 「壁のない場所を作る」をスローガンとして掲げ、人種、年齢、経済状況、障がいの有無などによる区別をしないことを方針としています。

支援事例

Bさん（男性・70代）
- ペルー出身
- 1990年代初期に来日し、娘と暮らす。
- 日本語はほとんど話せない。

	支援前	支援	結果
Bさんの事例	• 障害のある娘の介護について、ケアセンターほみに相談。娘との関係性も悪化気味。 • その後、Bさん自身も病気になり、介護が必要になる。	• 親子でケアセンターほみの支援を受ける。 • Bさんが入院中、娘はケアセンターほみの同行援助や家事援助を利用し、一人暮らしを行う。	• Bさんは自身の介護も娘の介護も支援してもらえるため、安心して娘と生活ができるようになった。 • 娘も支援が入ることで、精神が安定し、今では良好な関係を築けている。

支援の方法・工夫

- **外国人高齢者は重症化してから支援やサービスにつながる可能性があることを知ること**
  - 外国人高齢者は、日本人よりも重篤な状態から介護を受け始めることが多い傾向があると言います。その背景には、言語の壁による介護や医療サービスの理解不足が影響しています。
- **利用者の性格に合わせた職員による対応**
  - 同国ルーツの職員は利用者の母国語を理解でき、共通の言語でコミュニケーションをとることで、真のニーズや感情を引き出しやすくなり、適切な支援の提供につなげることができます。
  - しかし、母国語が分かる職員に対して気持ちを全てさらけ出し、きつく当たってしまう利用者もいます。そのような場合には、日本人職員にも担当してもらうなど工夫をしています。

所長 上江洲さんの活躍

上江洲さんのこれまで

1990年 来日

豊田市へ転居

静岡、沖縄等で働いた後、1998年に豊田市へ引っ越し清掃の仕事を始めました

介護職員初任者研修に参加

リーマンショックをきっかけに、介護に関心を持ち研修に参加。
日本語も一生懸命勉強し、無事修了しました。

訪問介護サービス開始

2011年6月に、他の介護教室の修了生とともに、「ケアセンターほみ」で訪問介護サービス事業の運営を開始しました。

ケアセンターほみの所長として活躍！

上江洲さんの紹介
- 日系ペルー人3世
- 高齢者生協ケアセンターほみ　所長

地域に根差した多様性のある施設として

- ケアセンターほみは、「壁のない場所を作る」をスローガンに掲げ、地域で多様性のある施設として認知されています。
- 職員が大学に講師として招かれ、多文化共生について講演を行うなど、理念の普及にも努めています。
- 地域で日本語教室等のボランティア活動をしている団体に対して場所を提供することで、活動を支援しています。

利用者の声

夫がケアセンターほみの訪問リハビリ、訪問入浴を利用しています。ポルトガル語で相談できたことが一番ありがたかったです。

今は、ケアセンターほみの職員が助けてくれるので、将来について不安は特に感じていません。

ブラジル出身・50代

スタッフと言葉が通じるため、安心して利用できています。介護保険についても、スペイン語で説明してもらえて理解することができ、とても助かりました。

ペルー出身・70代

愛知県高齢者生活協同組合　高齢者生協ケアセンターほみ
住所：〒470-0353　愛知県豊田市保見ヶ丘5-1　FOXTOWN 1階
HP：https://aichikoreikyo.web.fc2.com/homigaoka-h.html
サービス種別：訪問介護、障害者の居宅介護
職員数：18人（2024年2月時点）
外国人職員：14人（事務職２人、介護職12人）（ブラジル7人、ペルー5人）
対応言語：日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク・モア

- 京都に暮らす外国にルーツのある高齢者や障がい者を支えるために家庭を訪問して、相談対応や生活見守りなどの支援を行うボランティア団体です。
- 「多文化福祉委員」を養成し、言語や文化の課題を抱える方の生活支援活動を行っています。

支援事例

Oさん（男性）
- 在日韓国人2世
- 子どもの頃に差別を受けた経験から、自身のルーツに関する話をせず、本名も明かさなかった。

Oさんの事例	支援前	支援	結果
	• 72歳で脳梗塞を患い左半身に麻痺が残る。その後奥様が病死。 • 介護保険担当者からモアに相談があり、訪問を開始。 • 80代後半になって痛みがひどくなり、日常生活で思うようにいかないことが増え、あきらめや愚痴を聞くことが多くなった。	• 地道な訪問を続け関係性を築く。 • ある日、支援者の韓国人の友人とOさん宅を訪問。「韓国の歌を歌いましょう」と誘っても「知らない」と拒否。構わず韓国の有名な曲をギターで演奏し歌うと、Oさんも口ずさみ、これまで見たことがないくらい楽しそうに歌い始めた。	• 帰り際に友人が名前を聞くと、韓国名を教えてくれた。 • この日を境に、愚痴っぽかったOさんは元気になっていき、関係性もよくなった。

支援の方法・工夫

- **言葉の壁と向き合う**
  - 母国語を話すことで、利用者に関心がある、文化的背景を理解して寄り添う気持ちがあるということを伝えることができ、信頼関係につながります。
  - なまりのある日本語を話すと馬鹿にされるのではないかと考え、話すことを躊躇する方がいます。簡単なあいさつでも、母国語でのコミュニケーションは親近感が湧き、次のステップに進みやすくなります。
- **訪問・対話を重ね、関係性を築く**
  - 地道に訪問をして対話を重ね、関係性を構築することが大切です。
- **やさしいにほんご、ゆっくりした会話**
  - 説明の際に、簡単な日本語に変える、またはゆっくり話すだけで理解度が上がります。
- **家族を含めたコミュニケーション**
  - 本人の悩みと家族の悩みは違うため、家族とのコミュニケーションも重視しています。

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク・モア
住所：〒601-8022　京都市南区東九条北松ノ木町12 エルファ内
Facebook：https://www.facebook.com/profile.php?id=100063567086885
活動：役所、福祉、病院、銀行などの同行や通訳、話し相手や傾聴ほか
多文化福祉委員：16人（2020年時点）
対応言語：日本語、韓国語、中国語、英語、タガログ語ほか

在日コリアン高齢者支援センターサンボラム

- 在日コリアン高齢者の民族性に特化した介護サービスを提供しています。
- サービス利用のきっかけは、地域包括支援センターからの紹介が多いです。
- 地域のケアマネジャーの集まりで施設の紹介をしており、在日コリアンが居心地よく過ごせる施設として認知されるようになりました。その結果、日本人に合わせた介護サービスが合わずに、サンボラムにつながる利用者が増えました。

支援の方法・工夫

- **韓国の文化習慣に合わせた生活**
  - 共同のスペースでは、韓国の民謡を流したり、韓国のドラマやテレビ番組を流したりしています。誕生日会やひな祭りなどでは、韓服を着てイベントを楽しみます。
  - 看取りは、韓国・朝鮮の伝統的なしきたりに従って行えるよう、死者の民族衣装（寿衣）を準備しています。
- **母国語による対応**
  - 韓国語しか話せない利用者は、韓国語が話せるケアマネージャーやヘルパーが対応し、韓国料理を希望する利用者は、韓国料理を作れるヘルパーが担当します。
  - 在宅介護が困難でショートステイや施設を利用する際は、なるべく韓国語が分かる職員がいる施設を探すようにしています。

誕生会の様子

サンボラムの昼食

視点

～　どうして日本の施設に馴染めないの？　～

日本の施設に入ると気軽に話せる母語を使えず、慣れ親しんだ料理が出ないため居場所がないと感じるそうです。居心地がよいと感じるには、言葉と食事と生活習慣がとても重要です。

レクリエーションでも習字や折り紙など自身が体験していないことにはついていけず、疎外感を感じてしまいます。

そのため、サンボラムのように母国の文化習慣に合わせたサービスを提供している施設に移る方もいますが、まだまだそのような施設は少ない状況です。

日頃は日本人に合わせたサービスにならざるを得なくても、たまに外国人利用者の母国の料理を出したり、あいさつや単語程度でも言葉を覚えて話しかけたりするなど、ちょっとした交流を取り入れるだけで笑顔が増えます。

在日コリアン高齢者支援センターサンボラム
住所：〒544-0032　大阪府大阪市生野区中川西3-10-18
HP：https://sanboram.org/
サービス：通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所、有料老人ホーム、福祉有償運送
職員数：43人（2022年時点）
外国人職員：24人（韓国23人、フィリピン1人）
対応言語：日本語、韓国語

神戸定住外国人支援センター

- 地域に暮らす多様な文化背景を持つ人々が、「ともに生きる」ことができる社会に向け、活動しています。幼年期から老年期までのライフステージに関わり、交流の機会を提供しています。
- マイノリティの文化的背景を尊重した高齢者の介護事業と居場所づくり事業を行っています。
  - デイサービスセンターハナの会
  - グループホームハナ
  - 小規模多機能型居宅介護ハナ
  - ハナ介護サービス
  - コミュニケーションサポーターの派遣

支援事例

Dさん（男性・60代後半）
- 南米出身
- 日本語は全く話せない

Dさんの事例	支援前	支援	結果
	• 家族もコミュニティもなく、孤立していた。支援者もいなかった。 • Dさんの自宅の近所の人から、家から悪臭がすると「あんしんすこやかセンター」に連絡が入ったことがきっかけで、神戸定住外国人支援センターに連絡があり、つながった。 • 契約関係や医療関係機関でトラブルが多い状況であった。	• 経験豊富なコミュニケーションサポーターがDさんの自宅に通い、丁寧に信頼関係を築いていった。 • 支援の開始時は、小規模多機能型居宅介護の宿泊サービスを利用しながら新しい生活環境を整え、現在は、週3回通いサービス、週４回訪問サービスを利用し、毎日誰かが支援できる体制とした。	• 支援が入った後の通院・入院では、医療通訳の協力もあり、治療もすすみ、入院時も落ち着いて過ごしている。服薬のサポートを受けながら、1人暮らしもできるようになった。 • 初めてスマートフォンを入手し、国内外の家族、友人へ連絡ができるようになり、新たな一歩を踏み出した。

支援の方法・工夫

- **介護の知識を持った通訳**
  - ➢ 介護について利用者へ説明や説得をするためには、単に外国語が話せればよいわけではなく、ある程度の介護の知識が必要です。通訳者が介護福祉士の資格を持っていることが理想です。
- **多世代が交わる場**
  - ➢ 神戸定住外国人支援センターでは、子ども向けの学習教室も開催しており、祖母は介護サービス、孫は教室に通うなど、多世代にわたり利用されています。
- **母国の食事を通じた交流**
  - ➢ 同国ルーツのヘルパーの場合、母国の料理を作ることができるため、利用者に喜ばれます。ヘルパーにとっても、やりがいにつながっています。
  - ➢ 木曜日のデイサービスは、ベトナムデイとして過ごします。ベトナム料理の調理師を呼んでベトナム料理を作ってもらい、会話もベトナム語で楽しみます。

フフさんの活躍

フフデルゲルさんの紹介
- モンゴル出身
- NPO法人神戸定住外国人支援センター　ゼネラルマネージャー
- ヘルパー 2 級、介護福祉士、認知症対応型サービス事業管理者研修、介護支援専門員

フフさんのこれまで

2005年 来日

大学院でアジア言語・文化を学ぶ
日本語学校を経て、大学院に進学し、アジア言語・文化を専攻しました。

神戸定住外国人支援センターに就職
定住外国人支援や国際交流に関心があり、就職しました。最初は子どもへの支援が中心でした。

高齢者分野に転身
高齢者分野に適性を感じ異動しました。中国残留邦人の支援をきっかけに、多国籍の定住外国人高齢者の支援に関わりました。

外国籍の定住外国人を支援するケアマネジャーとして活躍！

支援者の立場として感じること

～外国人も安心して高齢期を迎えられる社会へ～

- 今支援をしている外国人高齢者は、歴史的な背景もあり、差別されていると思っている方も多いと感じます。現在の若い在留外国人が高齢者になったときには、そのようなことがない社会を作っていく必要があると思います。

➢ デイサービスセンター ハナの会では、食事やレクリエーションにおいても言葉や文化に配慮したサポートを行い、在日コリアンや中国残留邦人帰国者など、異文化をもつ人にもやすらぎの場となるサービスを提供しています。

特定非営利活動法人　神戸定住外国人支援センター
住所：　〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10　アスタクエスタ北棟502
HP　：　https://social-b.net/kfc/
サービス：高齢者事業（グループホーム、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、デイサービス、居宅介護支援）ほかコミュニケーションサポーター派遣、子ども支援など
職員数：介護職49人、NPO部門15人（2023年時点）
外国ルーツの職員：28人（韓国、ベトナム、中国）
対応言語：日本語、中国、モンゴル、韓国、ベトナム、英語、スペイン

集う

外国人高齢者を含む外国籍の方も、地域で生活をしています。
地域において、外国人と日本人の交流の場、集いの場づくりに
取り組んでいる事例を紹介します。

いくのコーライブスパーク

- 学校再編により閉校した御幸森小学校跡地を利用し、多文化共生の新たな拠点を創立。
- 外国人も日本人も、誰もが暮らしやすい街づくりの拠点を作り、事業を通して街の課題解決に取り組んでいます。

いくのコーライブスパークはこんなところ！

- 小学校跡地を活用して、NPOと企業の共同事業体による多文化共生のまちづくりに挑戦。
- つなぐ、まなぶ、たべる、はたらく、つどう、たのしむ、つたえる、まもる、の８つの機能を包括的に持つ、地域の拠点を実現しています。
- 外国ルーツの人々が生活の中で、総合的で包括的な多文化ソーシャルワークを実践できる取組をしており、多文化共生と多世代交流、および学びの「機会と場」を提供しています。

一例を挙げると

つなぐ
多言語相談支援室

まなぶ
学習サポート教室
「DO-YA」

たべる
障がい者雇用
イタリアレストラン

はたらく
飲食人大学

つどう
こども食堂

たのしむ
定期イベントの開催

つたえる
多言語による
情報発信

まもる
防災拠点

エンパシードプログラム

- 外国につながりのある若者が小・中学生を支援するサポーターとしての養成講座。
- 同じ国籍・ルーツの子どもたちに母語でピアサポートをすることを通じて、自分自身もエンパワーメントされていく。そんな機会も提供したいと考えています。

事務局長　宋さん

大切にしていることは
- 外に開かれた多様な場をつくること
- 困っている人を支援すること

いくのコーライブスパーク
住所：〒544-0034　大阪市生野区桃谷5丁目5番37号
Facebook：https://www.facebook.com/ikunopark/

Hokkaido Multinational Support Community

- 札幌近郊に住む外国人住民のための相互支援のコミュニティです。
- 会員は45人（2023年時点）、半数以上が外国人です。ほとんどの人が60代から70代です。
- 国籍はアメリカが大半であり、ほかイギリス、南アフリカ、ブラジル、スウェーデンなどとなっています。

外国人高齢者向けの企画

- イベントは日本語と外国語の二か国語で開催しています。資料も二か国語で作成してより多くの情報が行き届くように努めています。
- 介護保険制度は日本人でも難しい制度です。一度セミナーを開催したら終わりではなく、継続して開催しています。
- セミナーのテーマによっては専門家を招き、制度やしくみを分かりやすく説明しています。

クラブ

ウォーク アンド トーク
自然の中でウォーキングを楽しみながら交流します

ブッククラブ
読む本を決めて語り合います。ほかフォトクラブなど

Let's Chat Club
Zoomトークセッション
雪で孤立しがちな冬に開催します

セミナー

健康
健康的なライフスタイル
緊急医療サポートシステム、認知症など

シニアライフ
年金制度、介護保険制度、終活（生前贈与と遺言）

その他
税制、不動産購入
ミニマリズムなど

支援のニーズ

- 英語で対応してくれる介護サービス事業所があれば、外国人高齢者の不安が和らぎます。ケアマネジャーが英語を話せると希望が伝わりやすいです。
- 定年退職後や施設での生活を余儀なくされたときに、外国人が生活できる施設やフロアがあることが望ましいです。

視点

～　在留外国人高齢者の存在を知ってほしい　～

日本で30～40年以上を過ごしてきた会のメンバーが高齢になってきています。

「在留外国人は、いずれ母国に帰るだろう」と思っている人は多いのではないでしょうか。しかし長年日本に住んでいれば、母国に帰ってもカルチャーショックを受けるであろうことは容易に想像できます。日本で最期を迎えたいと思っている外国人高齢は増えており、そのことを知ってほしいです。

外国人高齢者が必要とする支援は何であるか、私たちは考え行動に移す時期にさしかかっています。

Hokkaido Multinational Support Community
HP：https://www.hokkaidomsc.org/（ページ下の言語で日本語を選択できます）

在日韓国人福祉会

- 在日韓国人の文化的・社会的背景に深い理解を持つ福祉の資格を持っている専門家達が、医療・福祉機関・行政の間に立ち、コミュニケーションが困難になった外国人高齢者の心の声を拾い、自分らしく生きるための支援を目的と４つの分野で活動を行っています。
  - 外国人高齢者総合支援活動
  - 福祉館（居場所支援活動）
  - 外国人認知症高齢者支援活動
  - 地域福祉活動
- 福祉館は毎週金曜日に開所しています。

福祉館で集う　～３つの効果～

- **孤立させない居場所づくり**
  - 福祉館を運営し、サロン活動の参加を通じて在日韓国人高齢者に「居場所」を提供しています。
  - コロナ禍において在日韓国人高齢者から「居場所」を求める声が度々寄せられたのがきっかけで始めました。週に1回、70代から90代までの20人（スタッフ、ボランティア含む）ほどが集まります。
- **参加者同士の見守り**
  - 認知症の方が参加する時は、近所の方が付き添って一緒に来て参加してくれており、参加者同士での見守りに繋がっています。
  - 福祉会に来たことがきっかけで、訪問介護などの介護サービスにつながることもあります。
- **職員、高齢者両者にとっての楽しみ**
  - 日本語教室、体操、介護保険制度の説明など、福祉会では色々なイベントを実施しています。企画の内容は参加する在日韓国人高齢者が中心となって決めています。
  - 高齢者と職員が一緒に韓国料理を作り、「韓国のおふくろの味」を教えてもらっています。福祉館の活動は、職員にとっても韓国文化を学ぶ貴重な機会となっています。

利用者の声

韓国出身・80代

みんなで体操をして、体を動かせることがうれしいです。
韓国には、「老人会」という高齢者が毎日集まれる場所があります。
日本でも、毎日集まれる場所がほしい。私たちの願いです。

韓国出身・80代

福祉館では、みんなと一緒に料理や工作をして、楽しく過ごしています。
食生活が日本と異なるため、韓国の食事が出て、韓国語で過ごすことができる施設で将来過ごせたらいいと思っています。

みんなでキムチを作りました！

新宿100トレ　仲間と一緒だからこそ続けられます

代表 金さんの活躍

金さんのこれまで

2000年来日

福祉大学で学ぶ 2004年
来日後、日本の大学に進学し福祉を学びました。

そら訪問介護事業所　開設 2010年
新宿区で「そら訪問介護事業所」を開設しました。

福祉会の集いを開始 2015年
利用者から韓国人高齢者で集える場所が欲しいという要望があり、福祉会を開始しました。

在日韓国人福祉会の代表として活躍！

クリスマス会の様子

金さんの紹介
- 韓国出身
- 在日韓国人福祉会　代表
- 社会福祉士、介護福祉士

支援者の立場として感じること

～言葉が通じることで、心のケアも。ある事例から～

- ある地域包括支援センターから統合失調症の疑いがある在日韓国人の相談を受けたことがあります。
- 訪問したところ、在日韓国人の方が、歩けない状態で叫んでいました。韓国人の職員が韓国語で「オモニ（お母さん）」と優しく声をかけると落ち着き、話を聞くことができました。その結果、言いたいことが通じないので叫んでいたことが分かり、統合失調症ではなくコミュニケーションに不自由があることが問題だとわかりました。
- 同じ国籍・ルーツであるからこそ、利用者の緊張感が薄れ、思っていることを伝えられるという安心感から、利用者との信頼関係を築くことができます。
- 相手の文化・背景を理解し、母語でコミュニケーションをすることは、利用者の心のケアにもつながります。

地域に開かれた交流を

- 近隣の方に作った韓国料理をおすそ分けすることもあり、福祉館は地域での交流を目指しています。

在日韓国人福祉会
住所：〒169-0072 東京都新宿区大久保1-14-6　1階
HP：https://jk-fukushikai.com/
職員数：スタッフ：5人、ボランティア：15人（2024年3月時点）
対応言語：韓国語

社会福祉法人 青丘社

- 当法人のある川崎市川崎区桜本は、長きにわたり在日コリアンが根付いた地域です。
- 地域交流施設２施設（ふれあい館・みんなの家）や保育園を運営するほか、高齢者事業に関しては、デイサービスや訪問介護等の事業展開に加え、外国人高齢者が集う「トラヂの会」の取組を支援しています。

支援の方法・工夫

- **居場所と相談がセットになった場づくり**
  - 生活する場所に「居場所」と「相談」できる場がセットで存在することで、初めて相談することができる。青丘社ではこの考え方を大切にしてきました。
  - 「トラヂの会」の参加がきっかけで、介護サービスの利用につながることもあります。

トラヂの会

- 1998年に結成された在日コリアン高齢者交流クラブで、登録者は約70人います。
- 毎週1回、60代から90代まで約40人が集まり、体操をしたり母国の歌を歌ったり様々なプログラムを通じて交流しています。
- 近い価値観を持った人たちの交流の場として機能しています。高齢になって孤立しないために、元気なうちから居場所づくりをすることが求められています。

トラヂの会の様子

視点

～　ケアはつながり続ける　～

ふれあい館は子どもからお年寄りまで、市民が相互に交流を深めることを目的としています。

活動のひとつである「中高生の学習支援・居場所づくり」は、経済的困難を抱え塾に通えない子どもを対象に、川崎市と連携しながら運営しています。当初は在日コリアンの子どもが対象でしたが、国籍に関係なく支援の輪を広げています。

青丘社では、学習支援に通っていた子どもたちが成長して同法人で働き始め、資格を取得し介護福祉士として活躍しているケースもあるそうです。

社会福祉法人　青丘社
住所：〒210-0833 神奈川県川崎市川崎区桜本1-9-6
HP：http://seikyu-sha.com/
サービス：地域交流施設2施設および保育園2施設を運営、デイサービス（地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護）、訪問介護事業、グループホーム（障がい福祉）など
職員数：181人（内介護職：70人）（2022年時点）
外国人介護職員：29人（韓国・朝鮮21人、フィリピン5人、ペルー3人）
対応言語：日本語、韓国語

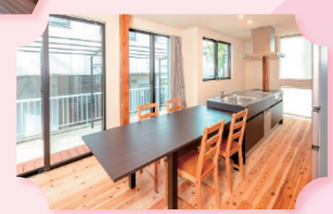
結びにかえて

本事例集は、外国人高齢者の支援の事例を紹介するとともに、外国人介護人材の活躍にも着目しました。一方で、外国人高齢者の支援は、当事者や外国人介護人材のみが関わればよいわけではありません。ヒアリングでは、ある支援者の方から「日本人であっても、外国へ行き、海外で老後を生活することを想像してみてください」と問いかけがありました。外国人高齢者の問題や取組を知り、「自分ごと」として想像力や共感力をもって考え、行動することが大切です。

今後、日本に住む外国人高齢者がさらに増加し、介護の多文化は一層進むことが予想されますが、現在、外国人高齢者の支援事例は、一部の施設・事業所や地域に偏っています。今後は、支援者同士がつながり、ネットワークを形成して支援事例やノウハウを共有するとともに、介護施設や団体、地域の垣根を超えて、外国人高齢者の支援に一丸となって取り組むことが望まれます。また、外国人自身も、介護保険や年金等の知識を得て、将来に備える必要があります。

本事例集は、多くの方に外国人高齢者の問題に関心を持ってもらうための入り口となることを目指しました。介護や福祉関係者、外国人の支援者、外国人介護人材、自治体の方等のみならず、地域にお住いの方を含め多くの方に本事例集をお読みいただき、外国人高齢者に関する支援の重要性や、外国人介護人材の活躍が認識されることを期待しています。そして、国籍に関わらず誰もが活躍し、安心して最期まで暮らせる社会の実現において、本事例集がその一助になることを願っています。

最後に、本事例集の作成にご協力をいただいた施設・事業所、支援機関、団体の皆さまに厚くお礼申し上げます。



出典：コモンフルールHPより

視点

～　新たな多文化共生のカタチ　～
シニアと外国人のシェアハウス

コモンフルールは、外国人介護人材と日本人高齢者女性をテーマにしたシェアハウスとして誕生しました。現在は、外国人介護人材に限定せず、外国人の女性と日本人女性の高齢者が一緒に住んでいます。

多文化交流が主な目的ではなく「気持ちよく住んでもらう安心感」を大切にして運営がされていますが、普段はそれぞれのペースで生活をして、気が向いたときに共有スペースでおしゃべりができるなど、ゆるやかな多文化交流が生まれていると言います。生活という日常に根差し、外国人のネットワークや、地域福祉、異文化交流など、様々な可能性を秘めた新たな多文化共生の場であると言えます。

コモンフルール（運営：有限会社西都ハウジング）
HP：https://www.commonfleur.life-shift.org/

メッセージ

本事例集は、厚生労働省　令和５年度　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業「地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割に関する調査研究事業」において作成されました。
本事業ではワーキンググループを開催し、外国人高齢者や外国人介護人材の分野で豊富な知見をお持ちの有識者と議論を重ね、助言をいただきながら調査を進めてきました。最後に、ワーキンググループの構成員である先生方より寄せられましたメッセージをお届けします。（氏名五十音順　敬称略）

今回の調査研究事業に参画させていただき、日本の様々な地域での課題を知ることが出来ました。地元大阪での多文化共生を介護福祉士の仲間とも共有して理解促進に努めていきたいと思います。
また、この調査研究で出逢った委員の皆様からも多くの学びをいただきました。皆様ありがとうございました。

（公益社団法人 大阪介護福祉士会
会長　浅野　幸子）

この事例集の作成の過程で、私たちも、事例提供者の方からたくさんのことを"伝えて"もらい、多くのことを"知り"ました。多文化共生社会おいては、まずは、お互いを"知る"ことがとても大切なことです。
本事例集では、ケアを必要とする人にも、ケアをしている人にも"つながる"手掛かりになることが書いてあると思います。ぜひこれをきっかけに、つながり、集ってもらえれば嬉しく思います。

（龍谷大学 短期大学部　社会福祉学科
教授　伊藤　優子）

2008年のEPAによる外国人介護人材の受け入れを皮切りに、外国人介護人材の役割や支援についてクローズアップされることは度々あります。その一方、外国人高齢者が抱える課題や支援に関しては、社会的関心が高いとは言い難い現状です。
そこで、本事例集で紹介した先進的な取り組みが、地域の外国人高齢者に対する外国人介護人材の役割や対策を講じるための一助になれば幸いです。

（大妻女子大学　人間関係学部人間福祉学科
教授　金　美辰）

この調査研究を通じて、改めて重要だと感じた点があります。それは関わる人の立場に立って考えることができるということです。人が人と関わる中で、理解し、助け合う社会を作っていくための、基本だと改めて感じました。この基本を皆が実施できれば、障壁のない人との関りが実現するのだと感じています。この事例集を活用し、皆でより良い関わりのできる社会を作っていきましょう。

（学校法人滋慶学園　東京福祉専門学校
副学校長　白井　孝子）

本事業を通じ、日本全国で活躍される外国人の介護職の皆様や在日外国人高齢者の方を支える皆様の活動を知ることができ、大変勉強になりました。私自身、以前アメリカにて在米日本人・日系人の高齢者支援を行っておりましたが、同胞のネットワークにいつも助けられていたことを思い出します。この事例集が関係の皆様のネットワーク構築のお役に立つとともに、国籍に関わらず、日本という国に住む私たちの「自分ごと」としてとらえるための一助となることを祈っています。ありがとうございました。

（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター　企画戦略局
リサーチコーディネーター　進藤　由美）

日本には高齢化社会と多文化共生社会の到来が同時に来ていることが、本年度の調査研究事業であらためてよくわかりました。
本報告書と事例集が今打つべき次の一手がどこかにあるのかを探るための一助になれば幸いです。

（Jコンサルティング合同会社
代表　髙橋　恵介）

本事業のワーキンググループにて全国の様々な外国人高齢者の実態や課題を知り、それらに対して様々な活動をされている皆様に出会い感動と感謝をいただきました。
まだまだ解決できていない課題が地域にたくさんあることを念頭に、微力ではありますが今後も外国人介護人材との関りを通して、彼らの役割を示すことができるよう視野を広げ活動と発信をしてまいります。

（社会福祉法人 奉優会　経営企画統括本部
理事　統括本部長　田島　香代）

本事例集は、我が国における外国人高齢者への支援の実践を集合知としてまとめたものであり、外国人介護職員をはじめとする外国人に期待される役割や可能性を示す先駆的な取組を紹介しています。
今後、外国人労働者の受入れが推進される中で、本事例集の取組が外国人高齢者への対応の必要性を考えるきっかけとなり、外国人高齢者を巡る課題解決の一助となることを祈念いたします。

（東北福祉大学　総合福祉学部　社会福祉学科
講師　二渡　努）